

教育研究評議会議事録

令和 7 年 6 月 1 1 日（水）
15 時 15 分から 17 時 0 0 分まで
法人本部 3 階 第一会議室

出席者
議長
評議員

玉手英利（学 長）

飯塚 博 出口 毅
村山秀樹 大森 桂
森岡卓司 中島 宏
中西正樹 津留俊英
並河英紀 宮地義之
永瀬 智 今田恒夫
黒田充紀 野々村美宗
渡部 徹 塩野義人
渡邊信晃 森 秀晴
千代勝実 土谷順彦
大西彰正 内海由美子
布施淳子 高澤由美
木村直子

根本建二 宮内健二 伊藤眞知子 瀬瀬 晃（理 事）
コーエンズ久美子 伊藤浩志（副学長）

欠席者
評議員

奥野貴士

陪席者
監 事
学長補佐

小屋 寛 大森夏織
坂本直樹 矢口友理 河合寿子 古瀬みどり 皆川真規 長峯邦明 斎藤昌幸

1 教育研究評議会（5 月 14 日開催）議事録について

玉手学長から、前回 5 月 14 日開催の本会の議事録（案）について確認があり、議事録が了承された。

2 【協議】令和 8 年度総合型選抜学生募集要項及び学校推薦型選抜学生募集要項について

出口理事から令和 8 年度総合型選抜学生募集要項及び学校推薦型選抜学生募集要項について、昨年度からの主な変更点を含め、公表内容について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

3 【協議】J-PEAKS 本部の設置等について

宮内理事から、J-PEAKS 本部の設置等について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

4 【協議】国立大学法人山形大学及び山形大学基本組織規則の一部改正等について

宮内理事から、国立大学法人山形大学及び山形大学基本組織規則の一部改正等について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

5 【協議】大学機関別認証評価の受審に係る自己評価書（案）について

コーエンズ副学長から、大学機関別認証評価の受審に係る自己評価書（案）について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

6 【協議】教職大学院認証評価受審に係る自己評価書（案）について

コーエンズ副学長から、教職大学院認証評価受審に係る自己評価書（案）について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

7【協議】山形大学日本語教員養成プログラム履修規程の制定について

村山副学長から、山形大学日本語教員養成プログラム履修規程の制定について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、原案どおり了承された。

8【報告】登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関への登録について

村山副学長から、議題に関して、報告があった。

9【報告】第4期中期計画及び行動計画の令和6年度進捗状況について

コーエンズ副学長から、議題に関して、報告があった。

10【報告】教育の創造的連携連絡協議会について

宮内理事から、議題に関して、報告があった。

11【報告】附属中学校における情報セキュリティインシデントの発生について

宮内理事から、議題に関して、報告があった。

12【報告】令和8年度概算要求（基盤的設備等整備分）について

玉手学長から、議題に関して、報告があった。

13【報告】外部評価結果について

コーエンズ副学長から、議題に関して、報告があった。

14【報告】財産貸付料収入状況（令和6年度実績）について

根本理事から、議題に関して、報告があった。

15【報告】他機関における研究費不正使用事例について（参考）

根本理事から、議題に関して、報告があった。

16【報告】令和8年度概算要求（施設整備関係）について

額額理事から、議題に関して、報告があった。

17【報告】米国の大学に在籍する留学生に関する特別措置について

村山副学長から、議題に関して、報告があった。

18【報告】韓国における海外拠点の設置について

村山副学長から、議題に関して、報告があった。

19【報告】大学間交流協定の更新について

村山副学長から、議題に関して、報告があった。

20【協議】令和8年度以降の教員人事の基本的な考え方について

宮内理事から、令和8年度以降の教員人事の基本的な考え方について審議願うものである旨説明があった。

次いで、玉手学長から、本件について諮られた結果、部局からの意見を聴く機会を設ける旨発言があり、改めて審議することとなった。

本件に係る主な意見及び質疑応答は次のとおり。〔評議員からの主な意見等（○：意見・質問）〕

○ある程度の削減はやむを得ないと考える一方で、どう補強するかが次の課題。全国の地方国立大学は似たような状況にあり、単独の大学でどうこうできる限界はもう超えているので、いかに連携を作るかが大事。前々回の評議会でも質問したが、連携先として真っ先に検討すべきは、地区ごとのブロック単位ではなく、同じような状況にある大学ではないか。そのような大学が、足並みを揃えて仕組みを作っていくことが喫緊の課題だと感じている。前々回は、ブロック単位での連携の方が重要だとおっしゃっていたが、その考えは、今も変わらないか。

→ブロック単位での連携と、同じような状況の大学との連携は、並行して進められるものだと考えている。システムの作り込みでバッティングすることがあるかもしれないが、ブロック単位での連携を進めることは、他の連携を阻害するものではない。どちらにスピード感があるかまだ読めない状況なので、全国の関連学部長会議等で円滑に話が進むようであれば、どんどん連携を進めていただいて構わない。将来像に関するワーキンググループや中教審では、「連携」と「統合」両方の言葉が出てくる。教育プログラムを統合した岩手連大と農学部のように、大学全体の統合ではなく、既存の枠組みを利用したプログラム単位での統合も、部局単位で検討していただきたい。国大協の議論では、大学院中心にという議論が多かった。本学において、大学院中心の連携にシフトできるかどうか、第4期中において、大学院改革が焦点になると思う。

○本資料のみでは、具体的なところは何も決まらないのではないかな。どのような議論で、どうやってポイント削減していくかを決めるのか、また、どう進んでいくのか。これらが全く分からないので、先の見通しを含めてご説明いただいたうえで、理解したい。

→今回の位置づけは、所謂「戦略」を決めるもの。「戦術」は、今後、教員人事委員会等で整理し、仕組みを構造化していきたいと考えている。まずは、戦略目標を決めようということで、ご理解を賜りたい。

→部局横断的な人事に真剣に取り組むためには、教員組織を変えなければならない。部局によらない柔軟な教員配置ができるよう、学術研究院の実質化が必要だと考えているが、まだ議論は進んでいない。新規採用教員をどれぐらい採用できるかについて、ようやく目途が立ったところ。今年度、教育プログラムの進め方に関する考えを部局長間で共有し、全学でどうしていくか、コンセプトを確認した上で、具体の数字について議論を進めたい。

次回は、令和7年7月9日（水）に開催することとなった。